

○事業所名	「みんなの安全基地」		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日		～ 令和 7 年 2 月 28 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 3名
○従業者評価実施期間	令和 7 年 2 月 1 日		～ 令和 7 年 2 月 28 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 3 月 17 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童らの状態をしっかりとアセスメントし、現状に即した妥当性のある個別支援計画を作成している。	・複数人の臨床心理士による個別対応そして様子観察を実施している。 ・各児童らの状況や状態また各児童らの家庭状況に合わせた柔軟な対応を心掛けている。	・どうしても課題の多くある児童に多くの意識が持っていないかたてしまっている。それ故、比較的手の掛からない児童に対してもどうすればもっと良い状態にもっていくことができるのかをより意識した支援を行っていきたい。
2	・児童らだけでなく、各児童の保護者さまとのコミュニケーションを大切にしている。	・各保護者様らに対して、保護者さまも可能な限り来設してもらえようお声掛けさせてもらっている。 ・月一回程度、来設可能な保護者さまとは子育て作戦会議と称し、家庭内状況や支援方法また保護者さまのご要望など、直接の聴き取りをおこなっている。	・これまで、なかなかゆっくりとお話ができている保護者様もいらっしゃるのが現状である。無理強いはできないが、保護者さまの来設をこれまで以上にお願いしていくなどして、保護者さまとの協力関係をより強固なものにしていききたい。
3	・児童らが安全に自由に存分に遊べる空間を提供している。	・当施設は、清潔な状態を維持した新築の建物と、周囲が空地となっているような立地条件にある。それ故、他の事業所と比較しても自由に安全に探索遊びができるような環境が整っている。	・より安全に、より自由に活動できるよう、今後も当敷地内の外構整備に努めていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者さまに周知できる水準の事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が存在していない。	・実用性のある緊急時の対応マニュアルが存在していないことについては、第一に管理者の意識の低さが最大の要因であったと考えられる。 ・開所初年度ということもあり、その場しのぎの対応に終始してしまっていた面が否めない。	・各種緊急時の対応マニュアルについては早急に作成する。そして、それらの緊急時対応マニュアルを改めて保護者さまに丁寧に説明していく。
2	・外部機関との連携が薄い。	・今年度は事業所内の当面の業務に追われ、外部機関との連携業務が必要最低限の程度にしかできていなかった。	・業務の効率化また職員体制を充実させることにより、管理者また児童発達支援管理責任者が外部機関の各関係者らと多くの連携が取れるような状態を構築していく。
3	・療育施設としての療育機能がまだまだ未成熟である。	・各保護者さま、また各種関係者さまに対して、臨床心理学的支援についての意義を十分に説明出来ていなかった。 ・各種学習能力また生活能力を向上させるための明確な支援プログラムを作成、その提案ができていなかった。	・臨床心理学的支援とはどういったものであるかの説明を今後より丁寧に説明していく。 ・臨床心理学的支援のみならず、学習機能や生活能力を向上させるための支援プログラムを作成し、それを望む保護者さまに提示していく。